

桜蔭俳話会 三月句会 (第三六三回)

平成三十年三月二十五日 (日)

(欠席投句

古野明美、藤本友子、恩田才美、

京林眞壽)

【推薦句】

型通り生きて潰へる春の雪

眞壽

下萌や義足走者は風を切り

才美

盲導犬訓練所跡花の雨

明美

残雪やこの世の澱を吸ひ尽くす

友子

相続のおほりし家の春障子

かほる

マニキュアの桜貝色新社員

幸

知らぬ子の挨拶美しき初桜

明美

ころころと笑ふ少女や下萌える

幸

【添削句】

度の合はぬメガネずり落つ春炬燵

友子

【理由】一句の中心は一つ。「度の合はぬ」か

「ずり落つ」のどちらかにする。

【添削案】

度の合はぬ母の眼鏡や春炬燵

三度病み過ごす大寒実万両

幸

【理由】原則として一句に季語は一つ。

【添削案】

乗り越えし大患みたび寒明くる

海苔一帖おまけ二帖の浜の小屋

ヤエ子

【理由】不用意に「の」は使わない。

【添削案】

海苔一帖おまけに二帖浜の小屋

気まぐれの日記とぢたる春日永

邦子

戸籍課の卓にひとつの紙雛

才

老梅の満開の夜の葬儀かな

邦子

わだかまり解けぬままなり春の宵

幸

仕事師の肋骨のひび春の宵

直子

塾の子の見まもり隊や春夕日

かほる

比べ見る卒業アルバム古希の宴

友子

たんぼぼや浄化またるる岸のビラ

ヤエ子

福耳の庵主の一人雛祭

ヤエ子

汁椀にあふれし香り露の臺

邦子

杖ついで雪道歩く三本足

直子

鴉鳴く桜囲みて体操会

ヤエ子

冴返る少年の指す駒の音

友子